

父のいない私が大学に進学できたのは、母が父の亡きあとと苦労したことから、手に職を持つことをすすめてくれたことが大きい。

大学に入ってから、いままで知らなかったことを知る。教員になつてからも、民教研での見聞や交流の中で成長してきたと思う。そしてふと小学校に入つたのは戦後なのに、しかも新制小学校の一期生なのに、なぜ小学校で「君が代斉唱」などという指導があつたのだらうと疑問が生まれた。どうにも腑におちないままに思い出している。

NHKの朝ドラ、「虎に翼」の舞台に三条が出てきたことで、高校までしか住んでない三条だが、なにかと振り返ることが多くなった。唯一「三条」の名を冠する三条小学校がなくなった。跡地もまったく様変わり。第一中学校も、小中一貫校のようなものになり、そしてまた我が母校三条高校が郊外に出されたその跡地に、建設されたとはー。

私の思い出すのは夢の中だけになってしまった。

(くまがいきい・新潟市)

思い出すこと

立石 由美

季節は秋だったように思います。新潟会館の一室に木村隆利先生に呼びだされて座っていました。思い違いがあるかもしれませんが、新大の阿部先生、若月先生、木村先生、片岡先生、あとで親戚になる佐藤賢さんがいらつしやつたように思います。新しく、今までにない広がりをもつた教育研究所をつくりたい、教育誌を出版したい、という相談でした。事務所をもつこと、教育誌は一般の書店にも置きたい、そんな相談だったように思います。そんな重要な場になぜ私が・・・今もつて不思議です。

白山診療所(当時)の関川先生が「子どもや保護者を患者におきかえるとこの研究所のコンセプトはびつたりする」とお医者さんなかにすすめられ、研究所の「部活」のような小さな学習会で子どもの病気のお話をしてくださいました。そこで、私の娘のアトピー

のことを相談したところ、よい先生を紹介してもらったのもご縁を感じています。研究所の最初のころは弁護士さん、議員さんも会員でほんとうに幅広く、県民のための教育運動ができる、と思つたものです。独自の研究会、講演会もあり、文科省の方針そのまままで窮屈な職場で、反感いっぱい、飢えをみたすような思いで参加したものです。

とくに民間教育団体のいろんな実践を教育情報で知ることができたこと、教育の本質論を知ることができたこと、子どもの見方を交流できたことは、私が勤め続けられた原動力だつたと思います。

現場のさまざまな状況のなかで、方向がわからなくなったり、自信をなくしたりしたときに、研究所の存在は心強いものでした。もともと新潟県民でなかつたので、研究所でつながつた先生方との出会いがあつたから勤め続けられたと思つています。木村先生たちは、私を対等に扱つてくださいました。今思つても冷や汗がでて恐縮します。

書店で教育情報を買つて、私の属する音楽教育の会の全国大会に参加された方とは今もよい友人です。

退職した今も書かせてもらっています。聞いていた

だける場のあることはうれしいです。新しい教育の問題も、教育情報から知ることができています。

奈良教育大学付属の問題のように自由さがどんどんなくなっているような今日、研究所の存在は重要です。

(たていしよしみ・新潟市)

研究所設立40周年

おめでとうございます

野澤 弘

夫、野沢勲が退職したのは、昭和60年だつたと思いますが、その前から設立のために出かけていたようでした。中央区東中通りの山崎ビルの2階の事務所によく出かけていました。

西蒲原郡から小熊隆さんと勲が事務局に通つていました。勲が手がけたのは、新潟県の学閥問題だつたと思います。

その後、私も退職しよく研究所に行きました。その